

登録コード	UAG03500	開講年度	2026			
授業題目	上級計量経済学				担当教員	矢部 竜太
					副担当	
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	月曜・5時限	
				授業形態	講義	
信大コンピテンシー	非該当					
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」				【授業の達成目標】	
	2 6 UAカリ・総人社・経済学, 2 5 UAカリ・総人社・経済学, 2 4 UAカリ・総人社・経済学					
	【経済学】経済学分野の高度で先端的な知識と技能を有する。				修士課程での研究を実行する上で必要不可欠な実証分析の手法を大学院レベルの発展的な計量経済学の内容を理解し、論理的かつ明瞭に説明できるようになる。	
(2)授業の概要	学部レベルの確率・統計理論、計量経済学の理解を前提に、発展的な数理統計学及び計量経済学の理論に関する講義を行う。 遠隔授業を実施する際は、Zoomを使用したリアルタイムオンライン授業とします。 ZoomミーティングのURLは、eALPSまたはメールにて事前にお知らせします。					
(3)授業計画	第1回： データの記述と要約 第2回： データの記述と要約 第3回： 確率と確率分布 第4回： 確率と確率分布 第5回： 第1回レポート課題 第6回： 統計的推定 第7回： 統計的推定 第8回： 統計的仮説検定 第9回： 統計的仮説検定 第10回： 第2回レポート課題 第11回： 線形モデル分析 第12回： 線形モデル分析 第13回： 第3回レポート課題 第14回： 正規性の検討 期末試験有 レポート課題の出題時期や提出期限等については初回又はeALPSにおいて適宜周知する。					
(4)成績評価の方法	レポート課題(30点)と期末試験(70点)により評価する。					
(5)成績評価の基準	講義中に示した例題あるいは課題と同レベルの問題が解ければ「水準にある」,応用問題が解ければ「やや上にある」,やや難しい応用問題が解ければ「かなり上にある」,例題からは難しい応用問題が解ければ「卓越している」。					
(6)事前事後学習の内容	予習の必要ないが復習を怠ると講義についていくことは大変難しいので講義で扱った内容は必ず復習すること。また、ほぼ毎週課題を出題するので次の講義までに解き、理解出来ない点については講義開始時に質問すること。授業内で定理の証明や計算手法について扱うので自分で再現できる程度まで単位取得のために復習すること。					
(7)履修上の注意	大学院レベルの計量経済学の理論的内容を中心に講義するため、学部レベルの計量経済学・数学(微分積分学・線形代数学・確率論・統計学)の理解を前提に講義を行う。理解が不十分な者の受講を認めるが、特別な配慮は行わないことを理解した上で受講してください。					
(8)質問,相談への対応	授業中の質問を歓迎する。個別の質問がある場合には、メールで日時を相談の上対応する。					
【教科書】	日本統計学会編, 改訂版 日本統計学会公式認定 統計検定2級対応 統計学基礎, 東京図書, 2015					
【参考書】	学部レベルの代表的な計量経済学・数理統計学のテキストは 山本拓, 計量経済学 (新経済学ライブラリ), 新世社, 1995 稲垣 宣生, 数理統計学, 裳華房, 2003 学部レベルの代表的な経済数学のテキストは 岡田章, 経済学・経営学のための数学, 東洋経済新報社, 2001 があります。 大学院レベルでの代表的な計量経済学のテキストは他に Jeffrey M. Wooldridge, Econometric Analysis of Cross Section and Panel Data, The MIT Press, 2001 があります。					